

歯学部

歯学教育プログラム

取得できる学位 ★学士（歯学）

■ プログラムの概要

本プログラムは、歯科医学ならびに歯科医療に関する教育プログラムで、「食べる」ことや口腔機能の維持向上という視点から学びを深めることができる。また、卒業時に歯科医師国家試験受験資格を取得できる。

■ 人材育成目標

変化の激しい現代社会のなかで、新たな諸課題に関係者と適切に連携しながら問題解決を図っていく能力を備え、全人的医療を実践できる高い歯科臨床能力を有する人材を育成する。

■ プログラムの到達目標（期待される学修成果）

| 1 | 知識・理解

- a) グローバル世界における経済、社会、生物学的な相互依存関係を理解し、自然ならびに人間社会・文化に関する理解を深める。
- b) 人間の成長、発達、老化および健康に関する基礎科学を理解する。
- c) 口腔の健康や疾病の基礎をなす口腔生物学を理解する。
- d) 歯科医療に影響を与える医学、歯学、基礎科学の最新の成果を理解する。
- e) 口腔疾患の病因と予防・疫学、ならびに病態、診断と治療の原理・原則を理解する。
- f) 歯科医療の実践が基盤としている法医学、倫理的原則を理解する。
- g) 医療提供体制と医療保険制度を理解する。

| 2 | 当該分野固有の能力

- a) 歯科医療において適切な感染予防対策を行う。
- b) 歯科医療において安全の確保を行う。
- c) 患者に対して有効な健康教育を行う。
- d) インフォームドコンセントの原則を遵守し、患者の権利を尊重する。
- e) 科学的根拠に基づいた歯科医療を実践し、その成績を評価する。
- f) 正確な患者の記録を作成し、適切に保存する。

| 3 | 汎用的能力

- a) 自ら問題を見つけ、解決策を立案し、問題を解決する。
- b) 明確かつ批判的に考え、経験や学習の成果を統合して思考を進める。
- c) 自己を省みて、行動やその結果を客観的に把握する。
- d) 統計スキルを用いてデータを処理し、数量から意味を見いだす。
- e) 日本語や英語により口頭で、また文書を用いて有効なコミュニケーションを行う。

- f) 自主学習のためにICTを活用する。
- g) チームのメンバーと協調して活動するとともに、リーダーシップを発揮する。
- h) 時間管理と優先順位づけを行い、定められた期限内で活動する。

| 4 | 態度・姿勢

- a) 倫理的、道徳的、科学的な意思決定を行い、結果に対して責任を負う。
- b) さまざまな文化や価値を受容し、個性を尊重する。
- c) 自分の利益のまえに、患者ならびに公共の利益を優先する。

■ プログラムの履修要件

- ・ 歯科医学・歯科医療、口腔生命科学の研究に対して高い目的意識をもっている。
- ・ 人間性豊かで、相手の気持ちを理解できる。
- ・ 自ら新しい課題に意欲的に取り組む。
- ・ 強い学習意欲をもち、広い学識の修得を目指す。
- ・ 高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を身につけ、国語・外国語の文章読解力および表現力と論理的思考力を備えている。

■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

歯学教育プログラムは6年制で、おおむね第1学年から第2学年前期、第2学年後期から第3学年、第4学年から第5学年前期、第5学年後期から第6学年と、学習内容から大きく4期に分けられる。授業科目は基本的にすべて必修で、「教養」「語学」「学習法・研究法」「基礎歯学」「臨床歯学」「知識・技能の統合」「医療人」「国際人」の8つの授業科目群から構成される。なお、学生の興味・関心にあわせ、「学習法・研究法」には教室配属による研究科目が、「国際人」には短期海外派遣科目が選択科目として設定されている。

第1期は「主体的な学習への転換と教養の涵養」を重視する。アクティブラーニングにより学習態度の転換を図り、本プログラムを履修していくうえで必須な問題解決能力、論理的思考力、表現力を育成し、パフォーマンス評価により学習成果を評価する。また、全学共通科目を通して、多様なものの見方にふれさせ、さまざまな文化や価値を受容し、個性を尊重する態度を涵養する。

第2期は「基礎歯学の学習と歯科医師としての自覚」が中心で、基礎歯学の授業科目を講義・実習形式で開講するとともに、患者とのふれあいを通して医療人としての自覚と態度を涵養する。また、講義で得た知識を統合し、問題解決能力を育成するために、講義と並行してPBLを実施し、パフォーマンス評価により学習成果を評価する。

第3期は「臨床歯学の学習と知識・技能の統合」が中心となり、臨床歯学の授業科目を講義・実習形式で開講する。それに並行して、第2期に引き続きPBLを、また新たに総合模型実習を実施し、基礎歯学を含め知識と技能を統合させ、より専門性を高めた形で問題解決能力を育成する。そして、その学習成果をパフォーマンス評価により評価する。

第4期は「歯科医療の実践と自己省察」の期間で、医療系大学間共用試験実施評価機構が行う全国共用試験（CBT・OSCE）での知識・技能・態度の評価を経て、診療参加型臨床実習で患者診療を経験させ、歯科臨床能力を育成する。歯科臨床能力の評価は、継続的にポートフォリオを用いて形成的に行い、臨床実習終了時に患者診療を直接評価するパフォーマンス評価を実施する。

本プログラムでもっとも重視する学習成果である歯科臨床能力は、歯科医療という文脈における問題解決能力と定義できる。低学年から高学年に向けて、問題解決能力から歯科臨床能力へと専門性・真正性を高めて育成し、その学習成果を代表的なアクティブラーニング科目で直接評価して卒業生の質を担保する。